

木材を耐火被覆した場合、木材が見えなくなる。そこで、耐火被覆を必要としない耐震パネル(LVL・鋼製枠組み)を建物外周に配置することで「見える化」を実現した。室内から目で見え、直接手で触れられ、建築主が木造に求める木材特有のぬくもりを感じらる、どの部屋からも採光、通風を確保できるものとした。

この耐震システムは設計者、施工者を問わず使用でき、ディテールを工夫することで木質構造だけでなくRC造やS造にも応用できる。

東部地域振興ふれあい拠点施設 耐火木造の技術によって「都市を新しい森にする」

今まで比較的大規模な耐火建築物の建設に用いられてきた鉄骨やコンクリートを木質材料に置き換えることが一般化すれば、

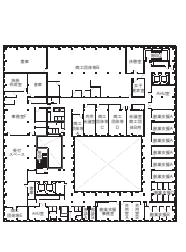
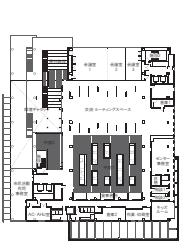
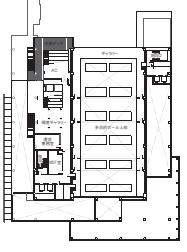
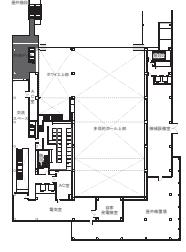
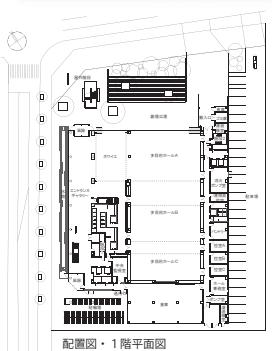
①再生可能な材料としての木材を使用した持続可能な社会の実現に大きく貢献できる

②新産業や新ビジネスの創出に貢献できる

③CO₂を都市に固定化できる

などの利点がある。

このプロジェクトでは環境建築の最先端モデルを目指し、木質材料による汎用性のある構造システムを開発して、6階建て耐火建築物の上部2層に適用し「都市を新しい森にする」というコンセプトを実現した。



建 物 名 称： 東部地域振興ふれあい拠点施設
所 在 地： 埼玉県春日部市南1-1-7
主 要 用 途： 行政事務・多目的ホール
敷 地 面 積： 5,212.4 m²
建 築 面 積： 2,848.04 m²
延 床 面 積： 10,529.08 m²
階 数： 地下2階・塔屋1階
主 体 構 造： 鉄骨造 + 木造
工 期： 2010.8.6 ~ 2011.9.30